

食品安全関係情報(3月8日～3月20日 収集分※)について

「食品安全関係情報」として食品安全委員会が収集したハザード毎の地域別情報件数の概要

(集計数は、今回/前回)

3月8日～3月20日 収集体数 (前回 2月22日～3月7日)		国際機関		北米		欧州		大洋州	アジア		中南米等	その他
		WHO・FAO等 国際機関 (8/9件)	米国 米国 (4/14件)	カナダ カナダ (1/8件)	EU、EFSA EU (15/24件)	各国 欧州各国 (26/17件)	FSANZ等 大洋州 (4/3件)	中国 中国 (7/5件)	各国 アジア (3/8件)	各国 南米 (0/0件)	報道、論文等も含む その他 (19/37件)	
化学物質 (19/38件)	化学物質・汚染物質 (4件)	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	1
	食品添加物 (6)	1	0	0	3	1	0	0	0	0	0	1
	農薬 (4)	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0
	動物用医薬品 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	器具・容器包装 (4)	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	1
	その他 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
微生物・プリオン・自然毒 (41/41件)	細菌 (6件)	0	0	0	1	2	0	1	1	0	0	1
	ウイルス (5)	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1
	原虫・寄生虫 (1)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	プリオン (5)	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	2
	植物性自然毒 (1)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	カビ毒(マイコトキシン) (12)	0	0	0	1	10	0	0	0	0	0	1
	動物性自然毒 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他 (10)	2	0	0	2	1	0	2	0	0	0	3	
新食品等 (11/12件)	新食品 (1件)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	GMO (7)	2	0	0	1	2	0	0	0	0	0	2
	健康食品 (2)	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	アレルギー (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	クローン (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	放射線照射 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ナノテクノロジー (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
肥料・飼料等 (1/4件)	肥料 (0件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	飼料 (1)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	その他 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他 (14/30件)	表示 (3件)	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0
	放射性物質 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他 (11)	1	0	0	2	1	3	1	0	0	0	3
海外の食中毒 (1/0件)	細菌 (0件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ウイルス (1)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	その他 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※収集期間については、主たる期間をいう。

食品安全関係情報(3月8日~3月20日収集分 87件)のうち、主なものの紹介

(詳細及び他の情報については、食品安全総合情報システム(<http://www.fsc.go.jp/fsciis/>)をご覧ください)

【化学物質】

- ・ 欧州食品安全機関 (EFSA)
 - ・ 欧州の住民における無機ヒ素の食事経由暴露量に関する科学的報告書を公表
 - ・ 食品及び飲料水中のクロムの存在に係る公衆衛生リスクに関する科学的意見書を公表
- ・ 英国食品基準庁 (FSA)、欧州食品安全機関 (EFSA) によるビスフェノール A (BPA) に関する意見募集に対する毒性委員会 (COT) の意見を公表

【微生物・プリオン・自然毒】

- ・ 欧州連合 (EU)、紅麴由来のサプリメント中のかび毒シトリニンの基準値を設定
- ・ フランス農業・水産省、牛伝達性海綿状脳症 (BSE) 発生頭数を更新 (2013 年:2 頭)
- ・ オーストラリア・ニュージーランド食品基準機関 (FSANZ)、チリにおける牛海綿状脳症 (BSE) 食品安全リスク評価報告書を公表
- ・ オランダ食品・消費者製品安全局 (VWA)、マイコトキシン (かび毒の総称) に関するファクトシートを発表
- ・ 論文紹介: 「シガテラ魚中毒と気候変動: 米国全米中毒センターデータの分析、2001~2011 年」

【新食品等】

- ・ 国際連合食糧農業機関 (FAO)、貿易で取引される食品及び飼料への遺伝子組換え作物の微量混入事例が着実に増加している旨を公表
- ・ 英国環境・食料・農村地域省 (DEFRA)、遺伝子組換え (GM) テクノロジーのリスク及び便益に関する英国科学技術会議 (GST) からの首相あての書簡を公表
- ・ フランス食品環境労働衛生安全庁 (ANSES)、紅麴を有効成分とするサプリメントを服用する前に必ず医師に相談するよう注意喚起
- ・ スイス連邦食品安全獣医局 (BLV)、紅麴を成分に含む食品の売買は違法と注意喚起